

10月開講！ 無料一般公開講座

『いのち』の声を聴く

平成27年 10月7日～平成28年 1月20日 水曜日 13時00分から
(12月19日のみ土曜日実施)

学校法人 関西金光学園 関西福祉大学 (兵庫県赤穂市新田 380-3)

人はこの世に生まれ、人と出会い、暮らし、やがて尊い一生を終えます。これは、すべての人に等しい真実です。死に際して人はさまざまな支援を必要とします。緩和ケア、葬儀、貧困、大震災…さまざまな生と死の臨界でいのちの支援を実践している講師の《まごころの活動》に耳を傾け、『いのち』の声を聴いてまいりたいと思います。無料の一般公開講座です。医療者、介護者、支援者、そして課題に直面しているご家族、友人。広く一般の方々のご来講を心からお待ちしております。事前申し込みは不要です。全15回です。1回だけの聴講も可能です。

講師



三浦 紀夫
真宗大谷派僧侶
NPO法人ビハール21事務局長

「終末期の患者さんに寄り添う
ビハール僧の役目」

体がみるみる弱っていき「悔しい」と涙する終末期のがん患者さん。ベッドサイドで、医師でも看護師でも介護職でもない僧侶が寄り添います。その存在を心強く感じてくださる患者さんご家族。その僧侶を「ビハール僧」と呼んでいます。どんな関わりをしているのかをお伝えできればと思っております。



沼野 尚美
宝塚市立病院緩和ケア病棟
チャレンジャーカウンセラー

「スピリチュアルケアの実践」

死と向き合った時、人は心の底から様々な叫びを持ちます。その叫びにはどのような意味があり、どのように関わる必要があるのでしょうか。人は一人では豊かに生きることができません。最期まで生き抜くためには、寄り添ってくれる誰かが必要としています。終末期の方々と共に生きる時に、必要となるケアをご紹介します。



桑山 浩明
訪問看護ステーションボシブル飛鳥
認定理学療法士(地域理学療法)・認定訪問療法士

「生と死」をリハビリテーション
マインドの視点から

高齢多死時代を迎える昨今の中で、リハビリテーションの狭義の意味である機能回復に留まらず、本来の意味である全人的復権から、人間の「生と死」を見つめていきます。自分自身も含め、多種多様な一人ひとりの人生をリハビリテーション専門職からの視点を変え、一緒に考えながらお話を進めていければと考えています。



渡辺 順一
金光教羽曳野教会長
支援のまち羽曳野希望館代表

「たましいの痛みをきく」

「いのち」を支える様々な絆の喪失、そして、経済格差の進行によって、今日の日本社会は深い「痛み」を抱えさせられています。講義では、そういう生きづらいつきにあって、人と人との「たましい」の次元で出会い、繋がり、認め合えるような関係をどう創り出していくことが可能なのか、教会や地域社会での「寄り添い」の実践について、お話をします。



入佐 明美
ボランティア・ケースワーカー

「生きる喜びを分かちあうために」

「人間はな、本音で話せる相手がいれば、何とか生きていける」。結核にかかった日雇いの労働者の言葉です。相手の話を肯定もせず否定もせず、ただ集中して聴くことの大切さを教えられました。よりよい支援をするには、まず聴くことから始めていきたいと願う日々です。



川浪 剛
真宗大谷派南沢寺衆徒
支援のまちネットワーク共同代表

「貧困社会ニッポンを生き抜く智慧」

貧困社会とよばれる時代に入ってきた。生活保護受給世帯が増え、GNP大国であった日本の繁栄が、脆いものであったことを露呈している。この問題は、経済的な側面があるけれど、より重要なことは関係的なものである。つまり、魂の絆をどう再構築するかという課題が求められている。



竹内 真治
金光教鶴橋教会長・金光教大阪センター主事
金光教大阪災害救援隊員

「復興への道標」

東日本大震災によって亡くなられた方、悲惨な生活を余儀なくされている方がたくさんおられます。生と死の臨界に立ったとき、我々はどうあるべきなのか。東日本大震災における支援活動、孤立集落支援活動の経験から学び、感じた体験をお話します。



中下 大樹
真宗大谷派祐光寺僧侶

「極限状況の中で見せる人間の姿
～生と死の現場から見てくるもの～」

今まで、数百名の末期がん患者さんの看取り、2000名を超える生活困窮者を中心とした葬送支援を行ってきました。東日本大震災の被災地の現場で目撃してきたことを含めて、人間の生と死の現場から見てくる「極限状況の中で見せる人間の姿」についてお話しさせていただきます。

『いのち』の声を聴く

ースピリチュアル支援論

[テーマと講師]

1. 社会におけるスピリチュアル支援 講師…渡辺順一、入佐明美、川浪剛
2. 震災とスピリチュアル支援 講師…竹内真治、中下大樹
3. 臨床場面におけるスピリチュアル支援 講師…桑山浩明、沼野尚美、三浦紀夫

講義担当…社会福祉学部 教授 中村 剛

スケジュール

オリエンテーション……………

社会……………

まとめ……………

震災……………

まとめ……………

臨床場面……………

全体まとめ……………

日付	曜日	時間	担当者
10月7日	水	13:00~14:30	科目担当 中村 剛
10月14日	水	13:00~14:30	渡辺 順一
10月21日	水	13:00~14:30	入佐 明美
10月28日	水	13:00~14:30	川浪 剛
11月4日	水	13:00~14:30	渡辺 順一
11月11日	水	13:00~14:30	科目担当 中村 剛
11月18日	水	13:00~14:30	竹内 真治
11月25日	水	13:00~14:30	竹内 真治
12月2日	水	13:00~14:30	中下 大樹
12月9日	水	13:00~14:30	科目担当 中村 剛
12月16日	水	13:00~14:30	桑山 浩明
12月19日	土	13:00~14:30	沼野 尚美
1月6日	水	13:00~14:30	三浦 紀夫
1月13日	水	13:00~14:30	桑山 浩明
1月20日	水	13:00~14:30	科目担当 中村 剛



関西福祉大学
KANSAI UNIVERSITY OF SOCIAL WELFARE

兵庫県赤穂市新田380-3

TEL. 0791-46-2525



●電車・バスの場合

JR三ノ宮駅より、JR播州赤穂駅まで約80分

JR岡山駅より、JR播州赤穂駅まで約70分

JR播州赤穂駅より、関西福祉大学までバスで約10分

●車の場合

中国吹田I.Cより、中国自動車道・山陽自動車道経由で赤穂I.Cまで約90分

岡山I.Cより、山陽自動車道で赤穂I.Cまで約40分

赤穂I.Cより関西福祉大学まで約3分

関西福祉大学 平成9年(1997)4月、学校法人関西金光学園が赤穂市の協力のもと、社会福祉学部単科大学として開学した。平成18年に看護学部、平成21年に大学院社会福祉学研究科、平成24年に大学院看護学研究科を開設。平成26年4月には発達教育学部(児童教育学科)を開設した。少人数教育で、福祉・看護・教育の心と高度な専門技術を併せ持つ人材を養成、教職員一丸となって全力で、学生一人ひとりの成長を支えている。

同時に、地域社会の発展に貢献する【開かれた大学】、地域に信頼され、愛され、輝き続ける大学を目指して、地域連携フォーラムや教員向けエンパワメント講座、子ども支援セミナー、「まちの保健室」活動などを推進。小学生へのなつやすみ宿題教室、赤穂市と共催の市民福祉大学講座、地域への出前講座も積極的に進めている。学生は、毎年12月の赤穂義士祭をはじめ、赤穂市や周辺地域のイベントに参加して地域の活性化に協力するとともに、東日本大震災などの被災地での支援活動も行っている。

